



1 巡検のお知らせ

次のように巡検を行います。ふるってご参加ください。
 なお、ロープウェイ料金（往復 2800 円）は自費になりますのでお願いします。
【日時】 8月26日（土）午前8時集合
 （雨天中止、中止の時はホームページに掲載します。翌日27日に順延する
 場合もあります。問い合わせ 中田）
【集合場所】 高山市町方・丹生川支所駐車場
【行き先】 上宝・新穂高ロープウェイから西穂山荘まで
 丹生川支所 → 平湯 → 新穂高（ロープウェイ乗車） →
 山上駅（トレッキング片道1時間くらい） → 西穂山荘（丸山）
 → 山上駅（ロープウェイ乗車） → 新穂高 → 平湯
 → 丹生川支所
【持ち物】 昼食、カメラ、野帳、帽子、日焼け止め、虫よけ、雨具 など

2. 巡検報告（高原川流域の岩石と地質）

7月30日（日）、久しぶりの巡検を行いました。朝、9時、国府交流センターに集まったのは次の14人でした。下畑、岩田、鷺見、寺門、山下、直井、中田の各会員他、地元高校の生物の先生、名古屋市からご夫妻、地元の高校生4人でした。

巡検コースは、十三墓峠（大坂峠）から上宝へ抜け、本郷から栃尾、福地、平湯から丹生川経由でもどります。3台の自動車に分乗し、まず十三墓峠の球顆流紋岩の崖を観察しました。球顆流紋岩は、6600万年～6000万年前に噴出した大雨見山層群とよばれる火山岩類の一部です。球顆とは、溶岩が急冷する時に石英やカリ長石などの鉱物が球状に成長したものをいいます。この中に青灰色の玉ズイ（メノウ）が混じっています。

次に、近くの石仏に行きました。石仏は、先ほどの球顆流紋岩の続きが、溶岩が冷えた時にできた平行な割れ目の風化により、割れ目の間が仏様の姿に残ったものです。昔から地元の信仰の対象で、石仏という地名にもなっています。高さは12m、高山市指定の天然記念物です。

この後、高原川まで十三墓峠を下りて、やはり、高山市指定の天然記念物の夫婦岩に行きました。陰陽2つの岩からなり、陰石の上に安産祈願のお社があります。直井さんによると、夫婦岩は、東側の山の上から転げ落ちたもので、この場所の岩盤や高原川上流から



台座から見上げる石仏

来たものではありません。東側の山上には、この岩石の由来の崖が見えました。これは、上宝火砕流の溶結凝灰岩で、同じ大石が高原川河床や近くに何個もありました。河床にもこの凝灰岩の大石があることから、何万年も前に転がったのではなく、最近（千～数百年前以内？）ではないかとのことでし



東側の山から転げ落ちた夫婦岩

た。岩石の表面をみると、大きさ数センチの礫がたくさん含まれており、礫はできた当時の熱と加重で平に変形していました。

次に、高原川を遡り、杖石に行きました。杖石は、高さ50mの岩塔で、弘法大使の伝説があります。弘法大使が立てた杖が、大きくなって岩塔になったといわれます。頂上には弁天様がお祭りしており、お参りすると良縁に恵まれるとのこと。登山道には鎖が固定しており、登ることができました。これは、大雨見山層群の溶結凝灰岩です。近くの河床に下りると、溶結凝灰岩（見た目は流紋岩）の岩盤となっていました。高原川が西側から続く尾根にぶつかり侵食で分断し、先端に杖石が残ったようです。



高原川河床から見る杖石

ようやくお昼となり、奥飛騨温泉郷上宝道の駅で昼食タイムを取りました。ベンチなど思い思いの場所で、涼風に吹かれながらお弁当を広げました。

午後になり、福地の化石館に行きました。福地は、日本でも有数の古生代の化石産地として有名です。福地層はほとんど石灰岩で構成され、サンゴ礁の広がる浅い海で形成されました。カンブリア紀以外のすべての地層が分布しています。福地層では、当時のサンゴ礁に多かった層孔虫という海綿の仲間の化石が多く見られます。このほか、蜂の巣サンゴ類、日石サンゴ類、三葉虫の化石も見つかっています。福知山トレッキングコースも途中で登ってみました。

最後に、平湯の神社の足湯につかり、盛りだくさんの巡検が終わりました。現地の案内文は古いものが多く当てにならないこともあります。巡検が終わって、「百聞は一見に如かず」行ってみてわかることが多いと思いました。